校内研修「道徳科の授業づくり」のミニ研修コンテンツ活用事例

１　読み物教材　小学校高学年「ブランコ乗りとピエロ」

２　参　加　者　小学校教職員９名

３　研修形態　全体

□　コンテンツを活用した際の研修の成果など

|  |  |
| --- | --- |
| ①　演習で出された中心発問（○）設定の理由（・） | ○　サムとピエロはなぜ仲よくなったのか。・「相手を許すこと」、「相手を認めること」の違いを考えさせるため。・本当に仲よくなったのか、深く考えさせたいため。○　いがみ合っていた２人はなぜかたい握手をしたのか。・いがみ合う気持ち、目立ちたい気持ちを乗り越えて、集団をよりよくするためにはどうしたらよいかを考えさせるため。○　なぜピエロの気持ちは変わったのか。　・異なる考えをもつ相手を理解しようとした気持ちの本質を探るため。 |
| ②　受講者の声（○） | ○　説明は詳しかったが、一文一文が少し長いように感じた。○　スライドにイラストなどが入っているとより理解しやすいと感じた。○　道徳教育について感じている課題設定の場面で、学校教育全体と道徳教育の関係性についての課題を設定したが、その後の説明や研修が発問中心であったため、課題解決の具体策やヒントを見付けることができなかった。○　スライド資料の一部が平成27年度版であったため、より新しく、また、研修で扱う読み物教材とのつながりをもって考えられる資料であるとよい。 |
| ③　成　果（○） | ○　短時間で「考え、議論する道徳」の授業を構想するポイントについて確認することができた。○　指導案を基に発問を検討することで、他の先生方の意見や考え方を聞くことができ、発問づくりの仕方について理解を深めることができた。 |
| ④　課　題（●）改善策（・） | ●　演習の個人思考について、教材文を読み、ねらいと発問を考える時間が５分では足りず、交流の時間も不足した。・教材文を事前配付し、発問を考えておくようにすることが考えられる。・国語的な読み取り中心の指導案を用意し、今回の研修の説明を受けどのように発問を工夫するとよいかを考えるような演習にすると、（教材を読む時間を除いて）個人思考が５分程度で設定することができると考えられる。 |

□　道徳科の実践例（小学校高学年）板書例

